

# 神からの強力な要請に従い、私は神に選ばれた特別な存在であることを「宣言」する

Greatchain

March 18, 2025

これは初めて起こった驚天動地ことである（数日前の YouTube）。私が神にこのように命令され、このように「宣言」することによって、私の生きる世界は全く違ってくる。

どういうことか説明しよう。私は神と私の間に、このような特別契約のような関係は、起こらないものとして行動してきた。

そもそも最初に、私が神から特別に「選ばれた者」 Chosen One であるらしいことを知り、神から特別に愛されているらしいことを知ったとき、それは確実なもの、証拠のあるものではなかった。したがって私は——これまでの私の経緯を知っておられる方々が、皆ご存知のように——これは権威のある確実なものではないのだから、「どうか私を特別扱いなどしないでほしい。その条件でなら、話し合いに応じます」と、繰り返しお願いした。そしてそのためには、自分の権利も存在も徹底的に否定する方策を選び、苦しんだ。

しかし、今回の私への神の命令は、私が身分的に特別の者であることを、公的に内外に宣言せよ、というものであった。こうなれば話は別である。私は堂々と、自分が特権をもつ者であることを世界に宣言すればよい。神ははっきり言った——「お前に対してゴチャゴチャ言う者がいるだろうが、そんなものは無視すればよい。」私はそうするつもりである。

このような神の処断によって、神のなされた諸々の、人間わざでない「御業」（これをギョギョウと読むのはやめてください）が納得できるようになる。不思議なことがいろいろ起こっている。（おそらく神と一体化した）私に対して敵対する者が、次々と滅ぼされるとか、私が途方もない知能を持っているとか魔術を使っているとか、私が一人で敵の大軍と戦っているなどと言われるのは、すべて神の靈力によるものであって、現実ではない。これらはすべて全く私の与り知らぬところで起こっている。

私が自分の特別の待遇について宣言をしても、私の名誉や名声や財産供与を拒否する従来の姿勢は、全く変わらず変えるつもりはない。しかし、さすがにアイデンティティの完全放棄宣言については、我ながらゾッとすることもある。特に私に名を付けてくれた両親や親族には、申しわけないと思う。しかしそれよりも、そういう例が（おそらく犯罪者を除いて）人類史上なかったとすれば、これは困ったことになる。

この問題については、これ以上広がらず、やがて立ち消えになるだろうと私が予想したときは、これでよかった。この地球が二つに分れると言われていることが早まれば、なおさら歓迎すべきことである。しかし現在のように、たとえ虚名だらうと悪名だらうと、私という人物の存在がこれほど注目されるようになれば、私の本名をいつまで隠し通すことはできなくなるだろう。私の存在は、私自身の手を離れることになる。自分でコントロールはできなくなる。この上は、文字通り神に任すよりほかないだろう。

繰り返して言うが、私は宗教的な人間ではない。神は私を気に入ってくれているのだから、そういう私を応援してくれるだろう。「宗教は宗教をなくするために存在する」と言った宗教家の明言がある。私は文筆家であり、私の創造する「作品」が何であれ、誇りを持っている。そして、その価値を認め、価値観を共有してくれる人々を増やすことによって、世界を改革できればよいと思っている。「そんなことができるものか」とか「お前にそんなことをさせるものか」とかいう敵がいることはわかっている。その敵と戦うことが私の使命である。私はワクワクしながら、この敵と戦うことを楽しみにしている。